

(国) 岩手大学

人文社会科学部 人間文化課程

キャリア教養学科 (日大東北高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

編入学を視野に入れ短大に入学した。1年生の冬休みから徐々に編入について具体的に考え始め、2年生の4月頃には自身が学びたいことと将来像といった点から希望編入先を完全決定する。編入理由は、両親が国公立大学への編入希望であったことと、自身が本当に学びたいこと、やりたいことが見付き、その実現をしたいと考えたため。

Q.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

編入学は1年の後期より選択。3か月間だけ本気で取り組むと決めたため、編入試験勉強に本腰を入れ始めたのは7月から。調査不足であったため7月になって英語試験内容はTOEFLであることに気づく。⇒他大学と異なる場合もあるため編入希望先の情報収集は念入りに。1年生の4月より毎月TOEICを受験していたが当時TOEIC英語試験免除のボーダーラインである点数を超越していなかったため、TOEIC勉強は7月いっぱい本気で取り組んだ。小論文に手をつけたのは8月からである。1日1つ丁寧に書き上げることを目標にしていた。面接練習を開始したのは9月下旬。

Q.実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

基本はキャリアデザインの授業で行われる編入学の内容に取り組んでいた。そのため授業内でアンドリュウ先生、三瓶先生から主な指導をしていただいた。小論文については、授業以外でも三瓶先生に相談しご指導を受けていた。

Q.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

2年生から放課後は学校で19時まで勉強、家でも勉強を行った。TOEICの点数上げと構成力と語彙力を意識した小論文対策。TOEICに関しては1年の7月から毎月受験していた。TOEIC対策に本腰を入れ始めたのは4月からであり、単語はもちろん攻略法を把握するように心がけた。小論文に関しては8月以降より本腰を入れ始める。1日1作を目標に、量や時間よりも1作に対する質を意識して取り組んだ。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

授業全部が編入への知識や学びとなり、勉強になった。特にキャリアデザインで行われる編入学。この授業があったからこそ編入合格への攻略法を掴むことができ、合格を勝ち取れたように思う。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

小論文はテキストを使って構成力を培い、語彙力は様々な本から養うこと。参考テキストに記載されていることばかりを過信するのではなく、直接細かいご指導をしてくださる三瓶先生の教えやアドバイスをよく聞き、素直に受け入れること。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

- ①自分が好きな英語や興味のある教養が幅広く学べる聖母に入学したい。
- ②合格してよかった。たくさん英語について学ぼう。
- ③「本当にこんな実力で受かるのか」という不安しかなかった。
- ④受験直後から合格発表までは落ちた気持ちが9.5割を占めており、完全就職で進めていた。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

何よりも大事なことは、編入先の大学に対して思う「どうしても貴学でなければならぬ」という気持ちだと思います。私は過去の経験上「保険で受験すると落ちる」ということを身に染みるほど体感していたので、本当に編入したい明確な理由があった岩手大学1本しか受けていません。加えてTOEICの点数も試験免除ボーダーラインギリギリで他の人より低かったと思います。小論文が大得意なわけでもありませんでした。でも合格したのは受験者の誰よりも岩手大学に編入したい気持ちと理由があったこと、誰よりも岩手大学について理解、熟知したからだと思っています。このことから、多種多様な取り組みや塾考を通じて、早めに学びたいことややりたいことを明確化させることが大事だと思います。